



中央部を薄くした超高周波タイプの水晶素板。世界でグローバルのみが取り入れている特殊製法で加工した

水晶素板の製造現場で作業する従業員  
中央市浅利



グローバル（中央）

# 水晶素板

## 唯一の製法で特殊製品

自動車や医療機器などの分野で需要増が見込まれる水晶振動子。振動子と、中の水晶素板を製造している中央市浅利のグローバル（有泉勝彦社長）は、米航空宇宙局（NASA）が考案した製法の実用化に成功し、「世界で唯一、この製法で超高周波タイプの素板生産を手掛けている」と同社。

水晶振動子は、水晶素板が薄いほど高い周波数となり、情報の伝達速度は速く、伝達する情報量は多くなる。

同社は「インバーテッドメサ型」と呼ばれる製法を導入。鏡面仕上げを施した素板の中央部を特殊な薬品で薄くすることで、安定して高い周波数を維持できる。鏡面仕上げを保ちつつ薄くする技術が売りで、2000年に確立した。

1982年に創業。海外メーカーとの価格競争にさらされる量産品から、特殊製品の分野に活路を求めた。有泉武彦会長（69）は「取引先からの要望を断つたことはほばない。これからは品質の高い製品を売っていく」と語る。〈宇賀神将樹〉